

<基となる事例>

「収穫祭をしよう」

【活用事例】 「脱穀・もみすり体験」  
～田植えから餅つきまで～

事例活用の理由

本園では、毎年米作りの活動を行っている。毎年行っている米作りの活動を、子供たちにとってより豊かな体験にできるようにしたいと考えた。米作り活動の改善を試みたいと考えていたところ、モデルプランにある「収穫祭をしよう」の事例が参考にできると感じ、本事例を活用した。

保育者の願い（ねらい）

- 米作りの過程を体験していく中で、米作りの大変さや収穫の喜びを実感する。
- 米一粒に注目させるため、手作業で米の殻をむく体験を行った後に、粳摺り機や脱穀機の使用を体験することで、生産性の高さといった機械のよさに気付いたり、機械の仕組みに興味をもったりする。
- 園で収穫した米が食べられるまでの過程を知ること、米の成長過程、食べ物を育てることや収穫への関心、食べ物を大切に作る気持ちをもつ。

アレンジした点・工夫した点

- 収穫祭までの過程を参考に、今回のねらいが達成できるよう本園の活動一つ一つにどのような意味があるかを振り返り、米作りへの関心が高まるよう計画の見直しを図った。
- 米作りの大変さを実感するために手作業による粳殻をむく体験を重視した。
- 手で粳殻をむく作業と粳摺り機や脱穀機の作業を比較し、機械の便利さをとらえ、ものへの関心を高めるようにした。

これまでの経緯

- 毎年、園内に作った田んぼで、田植えから稲刈りまでを行い、収穫した米で、餅つきをしている。以前の粳摺りは、ペットボトルを使った精米を行っていたが、子供にとって操作の強弱が難しく、米が割れることもあり、米が無駄になってしまうこともあった。そこで、今回は数粒の米を手でむかせることで、作業の大変さを体感し、その後の活動で、粳摺り機や脱穀機のよさに気付くことにつなげた。
- 稲を育てている中で子供の気付き（稲の成長や変化など）を大切にしながら、興味関心をもって見たり、世話をしたりできるようにした。



## 当日及びその後の活動の様子

- 担任が用意した稲穂から粃を取り、粃殻をむく様子を見せた。
- グループに分かれて、一粒ずつ、手でもみ殻をむく作業を行った。
- 地域の方の協力のもと、用意された脱穀機と粃摺り機で体験活動を行った。
- 唐箕を紹介し、粃の重さによって、段階的に粃を取り除く仕組みを見せた。
- 後日、地域の方に協力いただき、精米した米で餅つきを行った。



## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 園で収穫した米一粒一粒の様子に関心をもった。 (自然とのかかわり・生命尊重)
- お米の殻をむきながら、米の様子について、互いの思いや考えを伝え合った。 (思考力の芽生え) (言葉による伝え合い)
- 順番を待つなどのきまりを作ったり、自分たちでつくったきまりを守ったりした。 (道徳性・規範意識の芽生え)
- 脱穀機や粃摺り機の使用を体験することで、機械の仕組みに興味をもち、その便利さを感じ取った。 (思考力の芽生え)
- 地域の方とのふれあう機会をもつことができ、社会とのつながりを感じ取ることができた。 (社会生活との関わり)
- 米を食すまでの過程を体験することで、驚きや感動、喜びや楽しさを十分に体感していた。 (自然とのかかわり・生命尊重)

## 基となる事例を活用しての成果

- 自らの手で米をさわって、殻をむく作業は、普段食べている米に対して、実はこんな形をしているのかと驚いたり、一粒一粒の形が微妙に違うことなどの気づきが生まれ、興味・関心が高まる中で脱穀・粃摺り体験を行うことができた。
- これまでの米作り体験をより豊かなものとするのができ、例年の活動が深まった。

